

平成 32 年度横浜国立大学大学院入学者選抜における変更について（予告）

教育学研究科

(1) 一般入試

- ・ 教育学領域 選択専門科目試験の変更

- ・ 英語領域 出願書類に英語に関する外部試験のスコアの提出
選択専門科目試験の変更

(2) 二次募集（但し、推薦入試・一般入試にて入学定員が充足した場合には実施しません）

- ・ 英語領域 出願書類に英語に関する外部試験のスコアの提出

国際社会科学府

経済学専攻博士課程前期

(1) 一般入試

- ・ 出願要件、試験科目の変更
- (2) 国費等外国人留学生特別入試
- ・ 出願要件、試験時間及び試験科目の変更
- (3) 社会人特別入試
- ・ 出願要件、試験時間及び試験科目の変更
- (4) 金融プログラム特別入試
- ・ 出願要件、試験時間及び試験科目の変更

経済学専攻博士課程後期

(1) 一般入試

- ・ 出願要件、試験科目の変更

平成 32 年度横浜国立大学大学院教育学研究科入学者選抜における変更について（予告）

入試種別（一般入試）

研究科名：教育学研究科

専攻名／コース・専門領域等		選抜方法（募集人員）		試験教科・科目等		出願要件の一部変更	
平成 32 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 31 年度
教育実践専攻 教育デザインコース 教育学領域		一般入試 (募集人員 75 名) ※募集人員は教育デザインコース 全体の人員		【選択専門科目試験】 教育学に関する記述 問題。[120 分]	【選択専門科目試験】 英語（辞書持ち込み 可）。教育学に関する 記述問題。[120 分]	変更なし	変更なし
教育実践専攻 教育デザインコース 英語領域				【選択専門科目試験】 英語ライティング(辞 書持ち込み不可)。 英語教育・英語文学/ 文化・英語学に関する 記述問題 [120 分]	【選択専門科目試験】 英語共通問題(辞書持 ち込み不可)。 英語教育、英米文学・ 文化、英語学に関する 記述問題(1分野を選 択)。[120 分]	【出願書類についての注意】 1) 英語専門領域の志願者は、 英語に関する外部試験のスコ ア証明書のコピーを提出する こと。外部試験は、実用英語 技能検定（英検）、TOEFL iBT、TOEFL ITP、TOEIC 公 開テスト、TOEIC-IP、IELTS とする。受験日から 2 年以内 の証明書が望ましい。提出し ない場合は、出願できません。 2) 英語専門領域の志願者の うち、外国人留学生は、日本 語能力を示す証明書(「日本語 能力試験」、又は「日本留学試 験（日本語を含む)」)のコピ ーを提出すること。提出しな い場合は、出願できません。	

平成 32 年度横浜国立大学大学院教育学研究科入学者選抜における変更について（予告）

入試種別（二次募集入試）

研究科名： 教育学研究科

専攻名／コース・専門領域等		選抜方法（募集人員）		試験教科・科目等		出願要件の一部変更	
平成 32 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 31 年度	平成 32 年度	平成 31 年度
教育実践専攻 教育デザインコース 英語領域		二次募集入試 (募集人員 若干名) (但し、推薦入試・一般入試に て入学定員が充足した場合には 実施しません。) ※募集人員は教育デザインコース 全体の人員				<p>【出願書類についての注意】</p> <p>1) 英語専門領域の志願者は、英語に関する外部試験のスコア証明書のコピーを提出すること。外部試験は、実用英語技能検定（英検）、TOEFL iBT、TOEFL ITP、TOEIC 公開テスト、TOEIC-IP、IELTS とする。受験日から 2 年以内の証明書が望ましい。提出しない場合は、出願できません。</p> <p>2) 英語専門領域の志願者のうち、外国人留学生は、日本語能力を示す証明書（「日本語能力試験」、「日本留学試験（日本語を含む）」）のコピーを提出すること。提出しない場合は、出願できません。</p>	

平成32年度以降の入試について（予告）

平成32年度以降の、横浜国立大学大学院国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（平成31年度実施分以降）における入試方法を次のように変更します。

国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（平成32年度入試）

	従来（平成31年度入試）	変更点（平成32年度入試）
出願要件	<p>(1) 日本人の出願者で、外国語検定試験において以下のいずれかの成績のもの。 TOEFL-iBT：50以上 TOEIC：550以上 IELTS：4.5以上</p> <p>(2) 外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。</p>	<p>(1) は削除。</p> <p>(2) 外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。 学校教育法第83条に定める日本の大学を卒業した者（平成32年3月31日卒業見込の者含む）については、日本語能力試験の結果を提出する必要はありません。ただし、当該大学での教育が日本語で行われた場合に限りです。</p>
出願書類 語学試験の 成績	日本人の出願者はTOEFL, TOEIC又はIELTSの成績証明書を必ず提出する。	全ての出願者が TOEFL-iBT の成績証明書を提出する。
経済学検定 試験	日本経済学教育協会の実施する経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」のBランク以上の成績証明書を提出した者は専門科目試験の免除が受けられます。	日本経済学教育協会の実施する経済学検定試験「ERE ミクロ・マクロ」のAランク以上の成績証明書を提出した者は、その成績を本学で実施の専門科目試験「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」の成績に換算する。
試験科目等	<p>【専門科目】 「経済原論」「経済学史」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済史」「経済政策」「世界経済論」「統計学」「計量経済学」の9科目から2科目を選択し回答する。ただし、「ミクロ経済学」「マクロ経済学」は、2科目ともに選択しなければならない。また、「統計学」「計量経済学」も、2科目ともに選択しなければならない。 専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>	<p>【専門科目】 「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅱ」「経済史」「経済政策」「統計学」「計量経済学」の6科目のうち以下の7通りの組合せから1つを出願時に選択する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」と「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅱ」の2科目 「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」と「経済史」の2科目 「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」と「経済政策」の2科目 「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」と「統計学」の2科目 「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅰ」と「計量経済学」の2科目 「経済史」と「経済政策」の2科目 「統計学」と「計量経済学」の2科目 <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>* 「EREミクロ・マクロ」のAランク以上の成績証明書を提出した場合は「ミクロ経済学・マクロ経済学Ⅱ」「経済史」「経済政策」「統計学」「計量経済学」の5科目から出願時に選択した1科目を解答する。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>

平成32年度以降の入試について（予告）

平成32年度以降の、横浜国立大学大学院国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（平成31年度実施分以降）における入試方法を次のように変更します。

国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（国費等外国人留学生特別入試）（平成32年度入試）

	従来（平成31年度入試）	変更点（平成32年度入試）
出願要件	<p>(1)日本人の出願者で、外国語検定試験において以下のいずれかの成績のもの。 TOEFL-iBT：50以上 TOEIC：550以上 IELTS：4.5以上</p> <p>(2)外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。</p>	<p>(1)は削除。</p> <p>(2)外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。 学校教育法第83条に定める日本の大学を卒業した者（平成32年3月31日卒業見込の者含む）については、日本語能力試験の結果を提出する必要はありません。ただし、当該大学での教育が日本語で行われた場合に限りです。</p>
出願書類 語学試験の 成績	TOEFL, TOEIC 又は IELTS の成績証明書は任意。	全ての出願者が TOEFL-iBT の成績証明書を提出する。
経済学検定 試験	日本経済学教育協会の実施する経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」のBランク以上の成績証明書を提出した者は専門科目試験の免除が受けられます。	経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」の成績証明書提出による専門科目試験の免除は行わない。
試験時間	75分	60分
試験科目等	<p>【専門科目】 「経済原論」「経済学史」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済史」「経済政策」「世界経済論」「統計学」「計量経済学」の9科目から1科目を選択し解答する。</p> <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>	<p>【専門科目】 「ミクロ経済学・マクロ経済学」「経済史」「経済政策」「統計学」「計量経済学」の5科目から出願時に選択した1科目を解答する。</p> <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>

平成32年度以降の入試について（予告）

平成32年度以降の、横浜国立大学大学院国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（平成31年度実施分以降）における入試方法を次のように変更します。

国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（社会人特別入試）（平成32年度入試）

	従来（平成31年度入試）	変更点（平成32年度入試）
出願要件	<p>（1）日本人の出願者で、外国語検定試験において以下のいずれかの成績のもの。 TOEFL-iBT：50以上 TOEIC：550以上 IELTS：4.5以上</p> <p>（2）外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したものの。</p>	<p>（1）は削除。</p> <p>（2）外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。 学校教育法第83条に定める日本の大学を卒業した者（平成32年3月31日卒業見込の者含む）については、日本語能力試験の結果を提出する必要はありません。ただし、当該大学での教育が日本語で行われた場合に限りです。</p>
出願書類 語学試験の 成績	日本人の出願者はTOEFL, TOEIC又はIELTSの成績証明書を必ず提出する。	全ての出願者がTOEFL-iBTの成績証明書を提出する。
経済学検定 試験	日本経済学教育協会の実施する経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」のBランク以上の成績証明書を提出した者は専門科目試験の免除が受けられます。	経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」の成績証明書提出による専門科目試験の免除は行わない。
試験時間	75分	60分
試験科目等	<p>【専門科目】 「経済原論」「経済学史」「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済史」「経済政策」「世界経済論」「統計学」「計量経済学」の9科目から1科目を選択し解答する。</p> <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>	<p>【専門科目】 「ミクロ経済学・マクロ経済学」「経済史」「経済政策」「統計学」「計量経済学」の5科目から出願時に選択した1科目を解答する。</p> <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>

平成32年度以降の入試について（予告）

平成32年度以降の、横浜国立大学大学院国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（平成31年度実施分以降）における入試方法を次のように変更します。

国際社会科学府経済学専攻博士課程前期入学試験（金融プログラム特別入試）（平成32年度入試）

	従来（平成31年度入試）	変更点（平成32年度入試）
出願要件	<p>(1) 日本人の出願者で、外国語検定試験において以下のいずれかの成績のもの。 TOEFL-iBT：50以上 TOEIC：550以上 IELTS：4.5以上</p> <p>(2) 外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。</p>	<p>(1) は削除。</p> <p>(2) 外国人の出願者で、日本語能力試験のN1またはN2に合格したもの。 学校教育法第83条に定める日本の大学を卒業した者（平成32年3月31日卒業見込の者含む）については、日本語能力試験の結果を提出する必要はありません。ただし、当該大学での教育が日本語で行われた場合に限りです。</p>
出願書類 語学試験の 成績	日本人の出願者は TOEFL, TOEIC 又は IELTS の成績証明書を必ず提出する。	全ての出願者が TOEFL-iBT の成績証明書を提出する。
経済学検定 試験	日本経済学教育協会の実施する経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」のBランク以上の成績証明書を提出した者は専門科目試験の免除が受けられます。	経済学検定試験「ERE」又は「ERE ミクロ・マクロ」の成績証明書提出による専門科目試験の免除は行わない。
試験時間	75分	60分
試験科目等	<p>【専門科目】 「経済数学」「ミクロ経済学」「統計学・計量経済学」の3科目から1科目を選択し解答する。</p> <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>	<p>【専門科目】 「ミクロ経済学」「統計学・計量経済学」の2科目から1科目を選択し解答する。</p> <p>専門科目の出題は日本語で行うが、外国人の出願者は解答を英語で行うこともできる。ただし、語学辞典は持ち込み不可。</p> <p>【口述試験】 原則として日本語により面接を行う。</p>

平成32年度以降の入試について（予告）

平成32年度以降の、横浜国立大学大学院国際社会科学府経済学専攻博士課程後期入学試験（平成31年度実施分以降）における入試方法を次のように変更します。

国際社会科学府経済学専攻博士課程後期入学試験（平成32年度入試）

	従来（平成31年度入試）	変更点（平成32年度入試）
出願要件	<p>（1）日本人の出願者で、外国語検定試験において以下のいずれかの成績のもの。 TOEFL-iBT：50以上 TOEIC：550以上 IELTS：4.5以上</p> <p>（2）外国人の出願者で、日本語能力試験の N1 または N2 に合格したもの。</p>	<p>（1）は削除。</p> <p>（2）外国人の出願者で、日本語能力試験の N1 または N2 に合格したもの。 学校教育法第83条に定める日本の大学を卒業した者及び学校教育法第97条に定める日本の大学院を修了した者（平成32年3月31日修了見込の者含む）については、日本語能力試験の結果を提出する必要はありません。ただし、当該大学及び大学院での教育が日本語で行われた場合に限りです。学校教育法第83条に定める日本の大学を卒業した者は、卒業証明書を提出すること。</p>
出願書類 語学試験の 成績	日本人の出願者は TOEFL, TOEIC 又は IELTS の成績証明書を必ず提出する。	全ての出願者が TOEFL-iBT の成績証明書を提出する。